

令和元年度 事業報告

主な事業概要について

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

九州北部豪雨、千葉県を中心に甚大な被害をもたらした台風など、大規模な自然災害が全国各地で発生しました。10月の台風19号では、関東・甲信及び東北地方にて広範囲かつ記録的な豪雨により、多数の河川堤防が決壊・越水するなど、気候変動による自然災害の激甚化・頻発化を踏まえた社会資本整備の重要性、緊急性が改めて認識された年となりました。災害の復旧・復興、さらには防災・減災、国土強靱化等への対応と、地域の守り手である建設産業の役割は、益々重要になっております。

10月の被災の際は、岐阜県内の企業においても、多方面からの応援要請により、(一社)岐阜県建設業協会の指揮のもと、広域支援による人員の提供を行うべく、速やかに被災地を目指しました。災害直後の情報が輻輳する中、しっかりと連携を取りながら、災害支援活動に従事し、役割を果たしたのは記憶に新しいところです。

当協会の活動は、8月に開催した技術発表会では、各技術委員会より日々の研究成果を発表することで、効率的かつ有効な手段の提案・提言を行う公益機関としての認識を改めて共有する機会とし、建設技術講習会には、岐阜工業高等学校、関商工高等学校、飛騨高山高等学校の3校にて実施しました。

岐阜社会基盤研究所の研究発表会では、『H形鋼スリットについて』と題して発表を行い、自由討論会では、『トンネルの長寿命化について』の発表を行いました。また、岐阜県自然共生工法研究会の事例発表会に参加し、様々な事例発表を聴講する事で、産官学の各共同研究を通じて、他分野のノウハウや知識収集、人脈の形成、技術力向上に繋がるよう努めました。

トンネル技術委員会

1. 活動方針

トンネルの維持修繕や環境問題及び新工法に関して調査研究を行い、県内業者の技術力向上を図る事と、適正工法の研究等を行う事で、トンネル施工のより質の高い社会資本整備・公共福祉の増進に寄与する事を目的としました。

2. 活動内容

県内業者の技術力向上の為に、以下のような活動を行いました。

I. 技術発表会（当協会主催）への参加

『トンネルの長寿命化』についての取り組みが3年目となり、本年度は、トンネル劣化で最も多い乾燥収縮によるひび割れにテーマをしぼり、対策の提案を発表しました。

II. 建設技術講習会への参加

関商工高等学校 建設工学科2年生16名を対象に『社会基盤を支えるトンネル技術者』というテーマで講習を行いました。

III. 岐阜社会基盤研究所 自由討論会及び報告会への参加

岐阜大学サテライトキャンパスで開催された岐阜社会基盤研究所の自由討論会に参加しました。

IV. 現場見学会の開催

トンネル工事における新しい技術等の情報を得るため、岐阜県発注で施工されている鉄嶺（くろがね）トンネルの現場見学会を実施しました。

ダム技術委員会

1. 活動方針

ダム工事及び砂防堰堤工事に関する維持修繕・新技術・新工法・環境対策等の調査研究活動の実施、H型鋼スリットダムについては県内業者にて施工できるように会員相互の技術力向上を目的としました。

2. 活動内容

I. 現場見学会の開催

ダム工事、砂防堰堤における新技術等の情報収集のため、内ヶ谷ダム等において現場見学会を実施しました。

II. 技術発表会（当協会主催）への参加

「砂防堰堤及びダム工事の現状」の発表を行いました。

Ⅲ. 研究発表会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

岐阜大学サテライトキャンパスで開催された研究発表会に参加し研究成果の発表を行いました。

Ⅳ. 建設技術講習会への参加

関商工高等学校 建設工学科 2年生 16名を対象に『環境にやさしいダムづくり』というテーマで講習を行いました。

下水道技術委員会

1. 活動方針

近年、下水道施設の劣化が進み、耐震対策及び維持・修繕（更生）の課題が多い中、新技術等を採用した工法が県内企業にて施工出来るよう考案・研究し、技術力向上を目的としました。

2. 活動内容

Ⅰ. 下水道の維持・修繕（更生）工事に関する施工方法の検討

管更生工法や各施設の修繕方法の情報収集を行い、新技術を研究し、技術力向上を目指しました。

Ⅱ. 自然災害に対応した、下水道の検討

県内企業で出来る新技術（製品）の施工習得のため、情報収集を行い、研究し各委員の技術力向上を目指しました。

Ⅲ. 施工・製品の新技术の開拓

各講習会や展示会などに各委員が積極的に参加・取り組みを行い、有益な情報を取得し、研究テーマに活かしました。また、研究テーマの施工中である現場見学を行い、実際の施工方法や現場の作業員の声を聴き資料収集を行い、今後の研究に活用しました。

Ⅳ. 建設技術講習会への参加

岐阜工業高等学校 建設工学科 2年生 39名を対象に、『子孫に残そう美しい環境』というテーマで動画をまじえ、わかりやすく講習を行いました。

V. 技術発表会（当協会主催）への参加

『下水道管の再構築(管更生工法)』の発表を行いました。

VI. 岐阜社会基盤研究所の研究

岐阜社会基盤研究所の研究として、市町村へのアンケートを実施し集計し、検討しました。

橋梁技術委員会

1. 活動方針

県内建設企業の技術力向上を目指すと共に、会員相互のコミュニケーションをはかり、情報交換を密にして、発注者に対して技術力をアピールし、地域への貢献につながるよう活動しています。

2. 活動内容

I. 技術発表会（当協会主催）への参加

『中央道リニューアル工事を見学して』と題して大規模床版取替工事の紹介と、平成28年度より継続的に取り組んでいる『小規模橋梁の点検修繕について』の発表を行いました。

II. 建設技術講習会への参加

飛騨高山高等学校 環境科学科2年生27名を対象に、『橋梁とは！？』というテーマで講習を行いました。

自然共生技術委員会

1. 活動方針

建設工事と自然との関わりについて調査研究をおこない、自然共生に関する知識や技術の向上を目的として活動を行いました。

2. 活動内容

I. 概念「グリーンインフラストラクチャー」の考え方の理解

平成27年に国の施策に位置付けられた自然の持つ多様な機能を積極的に活用した社会資本整備や土地利用、管理の概念「グリーンインフラストラクチャー」の考え方を理解し、自然共生の視点から研

究に取り組みました。

令和元年6月24日に、長良川右岸藍川橋付近にて川に生息する水鳥の自然環境保全のため取り組んだ護岸にて研修、そして9月18日に清流長良川あゆパークにてアユをテーマに自然環境に対する関心を高め自然と親しむインフラ整備施設にて研修を行いました。

II. 技術発表会（当協会主催）への参加

『グリーンインフラについて～これからの展望～』と題して発表を行いました。

III. 建設技術講習会への参加

岐阜県立岐阜工業高等学校 建設工学科2年生39名を対象に、『地域を守る建設業～防災と豊かな自然との共生のために～』というテーマで講習を行いました。高校生に対しわかりやすく、建設業が地域の安全や環境を守るために大いに活躍し、大切なやりがいのある仕事であることを強調して、建設業という進路を積極的に検討してもらえよう講習を行ってまいりました。

安全・環境委員会

1. 活動方針

社会基盤整備・維持管理の担い手として、労働安全・環境の改善策の提案・指導、意識の向上及び自然環境問題への対応・改善を目的に活動しました。

2. 活動内容

I. 安全環境パトロールを実施

安全対策、省資源・省エネルギーへの取り組み、環境汚染の防止対策、自然環境への取り組み等をチェックシートに基づき指導・改善を行いました。

II. 合同安全講習会に参加

労働災害の防止についての研修を行いました。

Ⅲ. 各種環境フォーラム等への参加

びわ湖環境ビジネスメッセ2019および建設技術フェア2019 in 中部へ参加し、安全・環境対策の知識向上を図りました。

Ⅳ. 建設技術講習会への参加

飛騨高山高等学校 環境科学科2年生27名を対象に『現場における安全と環境に対する取組み』というテーマで、講習を行いました。

Ⅴ. 技術発表会（当協会主催）への参加

『現場における安全と環境に対する取組み』の発表を行いました。

Ⅵ. 研究発表会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

各構成団体が行った研究成果を聴講して知識の向上を図りました。

企画広報委員会

1. 活動方針

各委員会における研究・開発の成果を研修会等の企画・開催を通じて発信することで、地域の基盤整備に貢献する社会のニーズに応えるべく活動してまいりました。

また、公益法人としての事業目的の一つとして「学校関係者及び生徒に建設技術の素晴らしさを広く学ぶ機会を創出する」ことの趣旨に則り、各委員会から建設系学校に講師を派遣し、建設技術講習会の開催をしました。

2. 活動内容

Ⅰ. 技術発表会（当協会主催）への参加

令和元年8月8日に開催された技術発表会へ参加しました。

Ⅱ. 研究発表会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

令和元年9月12日に開催された研究発表会へ参加しました。

Ⅲ. 自由討論会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

令和元年1月16日に開催された自由討論会へ参加しました。

IV. 建設技術講習会の開催

1) 令和元年9月19日、飛騨高山高等学校 環境科学科2年生27名対象に講習会を開催しました。

講義：橋梁技術委員会・安全環境委員会

2) 令和元年10月25日、岐阜工業高等学校 建設工学科2年生39名対象に講習会を開催しました。

講義：下水道技術委員会・自然共生技術委員会

3) 令和2年1月15日、関商工高等学校 建設工学科2年生16名対象に講習会を開催しました。

講義：トンネル技術委員会・ダム技術委員会

上記3校の講習会第2部では、会員企業の若手技術者とグループディスカッション『若手技術者がホンネで答えます！』を企画開催し、20代の若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生の質問に本音で答弁しました。

V. 広報活動の実施

各委員会の活動・研究成果などを一般の方々へ広く知っていただくために、パンフレットの作成・自前のホームページの運用を通じ広報活動に努めました。